

コロナ禍を乗り越える 令和2年度「城南区人権講座」

新型コロナウイルス感染症に関連して、感染者・濃厚接触者、医療従事者などに対して誤解や偏見に基づく差別的取扱いや言動がなされた事例が報道されていますが、このような行為は決して許されるものではありません。

このような状況も踏まえて、例年実施している「人権講座」については、感染リスク回避のため、講演会方式ではなく講師からの寄稿文というかたちで皆さんにお届けし、併せてコロナ禍を乗り越えるメッセージを発信していただきました。

LESSON

3

幸せのデザイン

さだむら としみつ
定村 俊満氏 株式会社ソーシャルデザインネットワーク代表取締役

講師プロフィール

1951年生まれ。1975年九州芸術工科大学画像設計学科卒業後、株式会社ジーエータップ入社。2001年より同社代表取締役社長。

「福岡市営地下鉄七隈線トータルデザイン（2005年）」にてSDA大賞、グッドデザイン賞、他多数受賞。「子ども達と成長するサイン、基山小学校（2009年）」「JR西日本博多駅サイン計画（2011年）」にてSDA大賞受賞。2014年に株式会社ソーシャルデザインネットワーク設立。同社代表取締役、公益社団法人日本サインデザイン協会常任理事、NPO法人福岡デザインリーグ相談役、山口大学講師、福岡デザイン専門学校講師、福岡市文化振興財団理事他を務めている。専門領域は情報デザイン、環境デザイン、ユニバーサルデザイン。



LESSON

3

幸せのデザイン

定村 俊満さん

株式会社ソーシャルデザインネットワーク代表取締役

メッセージに寄せて

(城南区生涯学習推進課)

★ 定村さんは「福岡市営地下鉄七隈線トータルデザイン（2005年）」で数多くの賞を受賞するなど福岡を拠点に全国で活動を展開されています。

みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」の精神が、人権を尊重し人の多様性を認め合う幸せなまちづくりにつながる、という力強いメッセージです。

バリアフリーとユニバーサルデザイン

「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」という言葉を聞いたことがあると思います。「バリアフリー」とは障がい者や高齢者が生活する上で不都合となるバリアを取り除くことです。車椅子では使



↑ コペンハーゲン動物園

階段、スロープ、エレベータ（右奥）が同じ場所にセットで設置され、能力に応じて使い分けることができる。

いにくい階段や道路の段差を解消するスロープやエレベーター、視覚障がい者のための誘導用ブロックなどがこれにあたります。

「ユニバーサルデザイン」とは障がいの有無や年齢、能力などにかかわらず、できるだけ多くの人を使いやすい環境や道具をデザインすることです。視覚障がい者はもちろん、洗髪中に目をつぶっていても違いがわかるシャンプーとリンスのボトルや、外国人や高齢者にも意味が伝わりやすいピクトグラム、車椅子でも楽に通過できる幅が広い改札などがあります。「バリアフリーデザイン」は

障がい除去するデザイン、「ユニバーサルデザイン」はバリアを作らないためのデザイン、という違いはありますが、健常者だけではなく、全ての人が快適に暮らしていける社会をつくるという視点は共通です。



↑ ピクトグラム

JISで制定されている図記

ユニバーサル都市・福岡

福岡市は2012年から「みんながやさしい、みんなにやさしい」を合言葉に、ユニバーサル都市の実現を目指した事業を進めています。道路や公共施設のバリアフリー化はもちろん、高齢者も乗降が楽な低床バスの普及、街にベンチを増やすベンチプロジェクト、ユニバーサルデザインに配慮した企業やさまざまなアイデアを表彰するユニバーサル都市・福岡賞など、多くの事業が展開されています。

これらの事業は障がい者だけではなく、高齢者、子ども、女性、外国人、ジェンダーなど、これまであまり注力されていなかった人たちも一緒に、幸せな生活をしていけるまちづくりの取り組みです。能力の違い、国籍の違い、文化の違い、思想の違いなど、すべての「違い」を受け入れ、お互いに助け合う「みんながやさしい、みんなにやさしい」まちの実現がゴールです。

福岡のユニバーサルデザイン

2005年に開業した福岡市の地下鉄七隈線は世界で最も優れたユニバーサルデザインの鉄道とされています。車椅子でも使いやすい券売機、広い改札、



全ての駅で車椅子対応車両のすぐ前にエレベーターが設置されている

すべての駅でエレベーターはホームの中央に設置されその前に車椅子対応車両が停車します。車両とホームの隙間に段差はなく小さな車輪のベビーカーでも安全に乗り降りができます。さらに音声による案内装置が駅の各所に設置されており、視覚障がい者も安心して利用することができます。



地下鉄七隈線
健常者や車椅子利用者も楽に使える券売機

福岡銀行は2006年から3年をかけて店舗のバリアフリー化を進めました。車椅子や視覚障がい者も使いやすいATM、車椅子でも利用できる低いカウンターや記帳台の設置、ロビーの多目的トイレや音声の案内など、誰にでも使いやすい数多くの工夫が実現しています。各店舗では介助士や手話ができるスタッフも増えてきており、行員のモチベーションも大きく高まっているようです。

福岡市は2020年4月に「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」を発表しました。治療法が確立されていない認知症の人が、少しでも長く自立した生活を送るためのデザインガイドです。「記憶に頼らずに行動できる空間づくり」「安心して自分で選べる居場所づくり」を目標に、認知症の人の居住空間づくりの細かいポイントが解説されています。



福岡銀行
車椅子が2台すれ違うことができる広い入口

幸せのデザイン

国連は世界の幸福度ランキングを毎年発表しています。2020年の調査では首位はフィンランド、日本は62位でした。

幸福度を計るには「一人当たりのGDP」や「健康寿命」など6項目の指標がありますが、幸福度が上位の国では、経済的な安定以外に幸福を感じるいくつかの要素が目立ちます。そのひとつは「自由度」です。所得が低い人や高齢者、障がいを持っている人たちも、自分で自分の生活を管理でき、自分の行動を自分で決めることができる自由度です。



※写真はコペンハーゲン動物園
(右上同)



↑ コペンハーゲン動物園

違いを受け入れる寛容さが見える国

もうひとつは「寛容さ」です。異なった能力、異なった思想、異なった志向など、自分とは違うさまざまな人たちを受け入れる社会の寛容さです。これらの充実度が幸福感に大きく作用しています。経済政策ばかりが優先される日本ではこの項目の評価が低く、国民はあまり幸福感を持っていないという状況があるようです。バリアフリーやユニバーサルデザインは、このような「自由度」や「寛容さ」を広げ、人々が優しくなれるデザインです。相手の立場を理解し、受け入れることができる社会では、人々は幸福感をしっかりと感じるすることができます。

パンデミック

いま世界中をコロナ禍が襲っています。一旦おさまりをみせたパンデミックですが、第2波、第3波が予測され、まだまだ安心はできません。新型コロナウイルスとはずっと付き合っていくことになるという報告もあります。そんな中、感染者やその家族がバッシングされるという現象が起きています。思いもよらず感染者となった人たちを差別し、排除しようという動きはまさに「寛容さ」の欠如から生まれるものです。これは相手の立場を考えず、自らの幸福感を捨て去る愚かな行為です。感染の恐怖から出る追い詰められた反応だと思いますが、いまは冷静に行動し、みんなで力を合わせてこの事態を乗り切る時です。

「みんながやさしい、みんなにやさしい街」の住民は、みんなで幸福になれるはずです。

令和2年8月発行

福岡市城南区役所総務部生涯学習推進課

〒814-0192 福岡市城南区鳥飼6丁目1番1号 電話 092-833-4044 FAX092-822-2142

アンケートご協力をお願い

今後の事業の参考にしたいと考えておりますので、ぜひアンケートへのご協力をお願いします。
スマートフォン等で右記QRコードを読み込み、表示されたアンケート画面にてご回答ください。

(回答期限：令和3年3月31日)

